



広報

なま 市民の友

第620号 毎月1回発行
2002年(平成14年)
9月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷

市の人口と世帯	
*()内はうち外国人 2002(平成14)年7月末現在	
総人口	306,426(1,765)
男	148,175(918)
女	158,251(847)
世帯数	119,030(996)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	85,869
真和志	106,064
首 里	58,464
小 緑	54,264



第8回 2002年夏祭りin那覇
沖縄
一万人
エイサー
踊り隊

国際通りが夏いろに染まった。

沖

縄の夏を彩る風物詩、「一万人のエイサー踊り隊」が八月四日午後、那覇市のメインストリ

ート国際通りを夏いろ一色に染めて行なわれた。

旧盆(シチグワチ)に祖霊供養の念仏踊りとして行なわれる沖縄のエイサーは、すでにEISAとして国際語の地位を得た感がある。

大太鼓や半胴鼓(パーランクー)の音が夏空に響きわたり、思い思いに創意をこらした踊り隊が一・六キロの道のりを埋めつくすと、勇ましくも華やかなエイサー演舞が十一の会場で披露された。

衣装や踊りにユニークな感覚をとりにれた創作エイサーや、子ども会のエイサー、昔ながらの伝統を継承する各地の青年団体のエイサーに、沿道の観衆から盛んな拍手が沸き起こり、指笛があたりの空気を震わせて鳴り響いた。

興奮した面持ちでビデオカメラを手に訪れたおおぜいの観光客たちが、沖縄の夏本番を全身で体感する勇壮なイベントに酔いしれた。

夕暮れせまるフィナーレで行なわれたエイサーページェントでは、子どもから大人までの四十二団体・千六百人が、国際通りの久茂地から安里までを一齐に練り踊り、祭りの後のさわやかな夏風が、演舞者と観衆一人ひとりの火照った頬をやさしく撫でていった。

主な紙面

- (2面) 動物愛護週間に寄せて
- (3面) 観光功労者表彰
- (4面・5面) みんなでつくるみどりの街
- (6面) 那覇市の財政
- (7面) 情報PACK

支店の視点⑦

じゅうじょうこうじ
重城康二
(時事通信社那覇支局長)

1948(昭和23)年生まれ。神奈川県横須賀市出身。74年時事通信社入社、東京本社政治部、モスクワ特派員を経て87年に本社政治部に戻る。出版局世界週報編集部次長を経て2000年5月から那覇支局長。今年9月に東京本社出版局へ異動予定。



地域で費用を出し合い、電柱、街路樹の乱雑な違法広告も撤去して、数力所に個性的な案内掲示板を作った。

那覇市は観光立県を目指す沖縄の顔ですが、2年3カ月住んでみて「市街地に特徴・個性がない」と感じています。首里城、公設市場、壺屋などの観光スポットに限ってみれば第一級ですが、他は「人が住む街」で「人に見せる街」になっていないと感じています。京都、奈良、鎌倉：本土の観光都市に負けないように、市民一人一人がもっと意識を高め、地域が協力することが必要ではないでしょうか。お決まりの観光スポット以外で、本土からの客に見せたい所は「波の上ビーチ」。沖縄の人にとってはあまりきれいでない人工海浜ビーチですが、それでも本土の人にとっては、澄んだ水と砂浜のきれいにビックリなのです。

反対に見せたくないものは久茂地川。最近石炭岩石組みの護岸工事が進んでいます。それでも、いっそのこと、鉄板でも敷いて川面を隠し、上を駐車場にした方がいいのでは...とさえ思っています。本土の市街地河川に比べれば、水質も投棄されたゴミの量も、よほどましなのですが、沖縄のきれいな海と対比すれば、やはり自慢はできません。

週末は那覇市内を歩き回っています。特に最近、小緑、天久などの新市街地が目覚しく発展したためでしょうか、若狭、久米、辻、東町などの下町で、空き室看板が目立ちます。立派な公園もあり、福州園や孔子廟、波の上宮という名所もあるのに、これからもだんだん寂れていくのでは、と心配になります。「那覇まつり」には地域ごとの旗頭が立ち、「那覇ハリー」も地域対抗で競い合います。お祭りの時だけでなく、「個性のある街並みづくり」もそれぞれの地域が競い合ってほしいと思います。

活動費用は個人世帯・法人(本土系も含め)から月額百円〜千円の町会費(自治会費)を徴収する。そんな取り組みを地域の商店主の皆さんが中心になって考え、ボランティアを組織して活動してみたら良いのではないのでしょうか。

住民票コードの郵送は、9月上旬を予定しています。(市民課 862-3274)